周南の島「大津島」コミュニティ紙

潮流

2023年1月号
No.289

大津島データ　146世帯
人口　197人　男　81人　女　116人
高齢化率 79.6%
(令和4年11月30日現在)

題字：末兼南子さん　イラスト：大津美子さん

謹賀新年

皆様には健やかに
新年をお迎えのことと
お慶び申し上げます

昨年は、三年ぶりのポテトマラソンが開催されました。皆さんのご協力のおかげで無事に終える事ができ、ほっとしています。大津島では、赤ちゃんが続けて生まれました。若い命が増え、嬉しい限りでございます。

インフルエンザ、コロナ感染と影響が気にはなりますが今一度感染予防対策の徹底をよろしくお願いいたします。

本年も地域とのつながりを大事にしながら取り組みを進めてまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。新しい年が皆様にとって幸多い年でありますよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和五年元旦　大津島地区コミュニティ推進協議会
会　長　安達　壽富
事務局長　沖　武士

新人ママさん大集合

11月4日の育児学級では、離乳食の進め方や歯のケアについて教えていただきました。

離乳食の進め方では、口や舌の動きを見ながら、離乳食の硬さや大きさを変えることや、掴(つか)み食べのポイントなどとても勉強になりました。おやつは1歳を過ぎてから…というお話には少しドキッとしてしまいましたが…（笑）。

歯のケアでは、歯磨きのやり方やタイミングなど教えていただいたことを参考にしながら実践してみようと思います。

コロナ禍でパパママ教室や育児学級が中止になっている中、島で開催していただき、とてもありがたかったです。離乳食と歯のケアのお話で時間になってしまったので、また機会があれば他にも子育ての色々なことについて講演していただきたいです。

文＝古城　綾華

第三十三回 ポテトマラソン開催

文＝内山　剛

12月4日に、三年ぶりのポテトマラソンが開催となりました。直前まで天気予報が変動する中で、未明に雨が降ったもののスタートの頃には好天へと変わってくれました。程よい寒さを感じる気候はランナーの皆さんにとっては走りやすかったのではないかと思われます。

私自身は海の郷のメンバーとして芋汁配布の対応をしました。若潮の会が育てた大きな芋が特徴のこの芋汁。口いっぱいに広がる芋の甘味が味噌と良く溶け合い、身体が芯から温まります。多くの方々が笑顔で「美味しかった。」と言っていた姿がとても印象的でした。

このポテトマラソンは、島の子供のマラソン大会が島外向けに派生したと聞いています。これまで続いてきた三十三回にも及ぶ伝統あるイベントを続けていくために、今後も何かお手伝いできればと感じました。

徳山湾見聞録 36 気になってしまう天気予報の地図

文＝大津島巡航　三崎　英和

令和4年ももうじき終わり、新しい年を迎えようとしていますが、元旦の朝、皆さんは毎年ご来光を拝まれていますか。私はご来光を拝むことは久しくありませんが、毎年、自宅に泊りに来る孫たちと遊んでやるのが恒例の行事です。

その間、雨が降ってどこにも出られなくなると、孫たちのエネルギーが家の中で爆発してしまい、部屋がめちゃくちゃになるので、正月期間はただただ晴れてくれるようにと祈り続けています。

そのため、年末のテレビの天気予報の情報は必見で、雨の予測がされると、「この予報は正しくない」と決めつけ、「雨は降らない」という他の情報を探しまくってしまいます。

ところで、テレビの天気予報を見るにあたり、大津島に関わる仕事を始めてから特に気になるようになったのが、予測情報が表示される画面の地図上に、ちゃんと大津島が描かれているかということです。

一番よく目にする山口県の予報で使われている地図には、しっかり大津島が描かれています。では、中国地方版ではどうか。

中国地方版（NHK）でも、しっかり確認できますが、中四国・九州が対象の西日本版ではどうか。

残念ながら、ここまで広域になるとどこのテレビ局の画面でも確認することはできません。もちろん全国版も。ただ、こんな事が気になってしまうというのは、もしかして職業病なのかなと最近、少し気になっています。

イラスト　三崎　英和

アイランダー2022

3年ぶりに、対面式のアイランダーが、東京池袋で11月19日～20日に開催されました。大津島からは、美季さん（悦ちゃん娘）と私が参加しました。今回は大津島ブースの会場準備を拓殖大学の学生と卒業生が、全て実施してくれました。準備も含め25名以上の学生がテゴ（手伝い）してくれました。

2日間で、およそ200名以上のお客様がブースを訪れて下さいました。「大津島?どこにあるの?」「えっ?すだいだいって何?」「美代子の籠?」など、絶えない質問に、学生達は丁寧に答えてくれていました。学生達は入学・卒業し、代替わりを続ける中で、卒業後も企画に参加するOBも増えてきました。OBの柏野君は、先日の来島で通算来島回数が10回になりました。1年間に必ず2回。これは、私の帰省回数と変わらず、彼にとって大津島に行くことは、もはや帰省と変わらないのかもしれません。彼の中では行きたい島を選択した時に、最初の候補は大津島であり、沖縄ではありません。大津島が沖縄に勝った瞬間です(笑)。

大津島には、少数でも繰り返し行きたくなってしまう要素（人、食、空間、風景）と可能性と魅力が沢山詰まっています。それを彼が証明してくれています。

柏野君20回目指して、また帰っておいでね。

文＝大友　翔太

若潮の会通信 No.48

12月4日、まだまだ続くコロナ禍の影響の中で参加人数を抑えて、3年ぶりにポテトマラソンが開催されました。皆さん、忘れた方もおられるかもしれませんが、私ポテ丸も3年ぶりに公の場に姿を現し来島される選手の皆さんを出迎え応援することができました。

選手の皆さんは、参加手続きとウオーミングアップを済ませ、スタートし、力走の後は大会名物の暖かい芋汁をいただきました。今回も元気な子供たちに出会い、ジャンケンをしながらお菓子を配り多くの子供たちとふれあうことができ楽しめました。多くの学校行事、催しが中止される中、思い出の中の一つになればと思い最後の見送りまで頑張りました。

選手、スタッフの皆さんお疲れ様でした。ポテ丸も疲れました。

文＝スイーシー＆ポテ丸

◆１１月１３日（日）回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式が行われました。当日は、雨の中での開催でしたが関係者、島の人々の協力のおかげで無事に終了致しました。ありがとうございました。

◆ 令和４年度　建国記念奉祝行事・大津島文化祭中止 ◆

令和５年２月に開催を予定しておりました建国記念奉祝行事及び大津島文化祭は、コロナウイルス感染拡大の防止に伴い、中止させて頂くこととなりました。

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
３月１日　第290号

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

▼預託者　光藤　慎二　様
父　光藤　士郎　様の香典返しとして
金１０万円（市社協２万円、大津島社協８万円）

・１月３０日（月）　税の申告相談
大津島ふれあいセンター（11：30 ～ 13：00）
大津島支所（14：30 ～ 16：30）

移動図書館　やまびこ号ジュニア
１月18日（水）、２月22日（水）
馬島１１：３０～　刈尾１２：２０～

【編集後記】明けましておめでとうございます。昨年は、ポテトマラソンが行われ、久しぶりのイベントでした。世の中は、物価も上がり、生活を苦しめている中、ワールドカップで日本が大活躍をし、明るいニュースが駆け巡りました。今年も、いい出来事がありますように願っております。　文責：原田 和保

知っちょるかね　つづの木の道

しまの墓参の道の側にある林から道の上に伸びる木の中に、つづの木がある。秋になると薄黄色の透明感のある実を落とす。その実の中には、真っ黒で硬い種があり、薄黄色の皮を破って黒い種が道に転がっていることもあり、それを見て母がいつも「あら、つづが落ちちょらあ」と言って黒い種を手に取る。その度に「この種が羽つきの、あの羽の下の黒いところなんでの」と言うのが常だった。

毎年それを聞きながら大きくなった私は、ある年その実を拾って帰り、硬い種に釘で少しづつ穴を開けた。その硬いこと硬いこと。不器用な子供の手では中々穴は穿(うが)てず、浅い穴が少し開いただけで、良しとする。この頃から私は自分に甘い。そこで、次は羽だと言うことで、飼っていた鶏小屋に行き、その辺りに落ちている汚れていない羽を拾ってきて、くだんの穴に挿そうとするが、穴は浅いのでとてもじゃ無いが羽は脚の部分も隠せはしない。尤(もっと)も子供の知恵なんだから、羽の足元を切るなどという事にも気づかない。あしの長いままつっ込もうとするものだから、足元の覗いた羽が生えたような不恰好な物しか出来なかった。それでもそれを妹に羽を作ってあげたと恩に着せて羽子板を持って来させ、つかせてみた。当然の事ながら、いっぺんで羽は抜けてしまい、何度か挿してはつかせてみたが、とうとう妹は嫌気がさしてやめてしまった。姉ちゃんらしい処を見せようとした私の作戦は、物の見事な惨敗で終わる。思い出す度にため息の出るつづの話。

文＝松本　千恵子

まあ、我が家の話とは別にこのつづ、昔は洗剤やシャンプー代りに使っていたという。それは種では無く、外側の薄黄色の皮の方を使うのだそうだ。皮を水に浸けて揉んでいると泡が出てくると言う。それで洗濯したり、髪を洗ったりしたそうだ。残念ながらそっちの方は試してみなかったが、いつかやってみようかなと思っている。

島では、つづと呼ぶこの木。世間ではむくろじと呼ぶそうだ。で、グーグル先生にお伺いを立てたら、私の知っている知識など瞬時に答えが出た。何かガッカリ！「なんて時代だっ」なんてね。

どこかで聞いたことある、あんこ餅の作り方

私のカミさん(鹿野出身)のお話です。

文＝原田　和保

※ 衛生状態には個人差があります。

◆発行　第２８９号－令和５年１月１日－大津島地区コミュニティ推進協議会　◆編集　潮流編集委員会　◆事務局　大津島支所　〒７４５－００５７　周南市大字大津島１３６１－４　電話０８３４（８５）２００１　ファックス０８３４（８５）２７３２